

AEON MAGAZINE

For a Sustainable World

June 2022

Vol. 77



特集

森や樹木とともに生きる

見ごたえあふれるパラスポーツの世界
パラサイクリング

体に合わせた自転車で
コースを疾走する



森や樹木と ともに生きる

国土の約7割を森林が占める国、日本。

近年では、気候変動対策や生態系保全の観点から森林保全が語られるが、

私たちは昔から森を活用して暮らし、豊かな文化を育んできた。

森は適切に管理し、資源として活かすことで健全性が保たれるとともに、

林業など地域の産業として根つき、人々の暮らしを豊かにできる。

そこで今号では、森林保全や健全な森林管理など、日本の森を守る多角的な取り組みを紹介。

さらに、イオンが進めるさくらの名所づくりや木の命を守る樹木医という仕事にも触れ、

人と森や樹木との深い関わり方にスポットを当てていく。

後世へとつながりゆく 日本カルチャーの 伝承者たち

Contents

02 後世へとつながりゆく
日本カルチャーの伝承者たち
Vol. 13 上川一男 後編

Feature

03 森や樹木と
ともに生きる

16 大いなる哲学を持ち、
エシカルな食の場を提供する
Sustainable Restaurant
Vol. 13
料亭 南都屋

17 イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン
地域とともに
地球温暖化防止を考える

18 見ごたえあふれるパラスポーツの世界
パラサイクリング

19 シェフパートナーズ料理塾より
Vol. 13
サーモンとウフマヨネーズの
サラダ仕立て

AEON MAGAZINE
June 2022 Vol. 77

発行日：2022年5月24日
発行所：イオン株式会社 コーポレート・コミュニケーション部
〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
TEL：043-212-6061
ホームページ：https://www.aeon.info/
※本誌の一部を抜粋した英語版、中国語版を
下記ホームページよりご覧いただけます。
英語版 https://www.aeon.info/en/
中国語版 https://www.aeon.info/cn/

本誌上における社外からの寄稿や発言は、
必ずしも当社の見解を表明してはなりません。

表紙の和菓子
もうすぐ夏休み

作：井上 豪(東京マイスター、優秀和菓子職)
梅花亭 東京都新宿区神楽坂6-15
http://www.baikatei.co.jp

この冊子はイオンの情報誌です。
Aeon(イオン)はグループの総称です。



右上/2014年に黄綬褒章を受賞 右下/銀器と信楽焼(外側)を組み合わせた盃。「(日本酒の)熱燗を銀器で飲みたいという方がいたので製作してみました」と上川さん 左上/上川さんの師匠である初代 上川宗照作のやかん 左下/江戸時代に編纂された職業図鑑「銀師」は「諸(もろもろ)の金物これつく」と紹介されている(写真は「人倫訓蒙図彙」平凡社刊より)

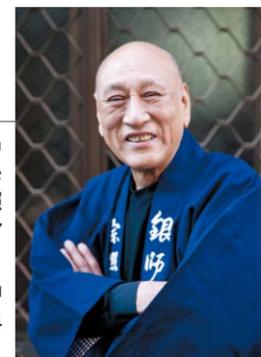
銀器の歴史は古く、平安時代に編纂された法典「延喜式」にも記述があります。銀師の上川一男さんは約60年、江戸時代から継承された技法を守り、そして時代に合わせた銀器づくりに打ち込んできました。

江戸時代末期の銀師・平田禪之丞の技を継承する11代目の上川さんがこの道に入ったのは16歳の頃だ。10代目であった父親に師事した。「昔はこんな儲かりもしない仕事は嫌だ」と思ったこともありましたが、やればやるほど奥深く、おもしろくて、天職だと感じるようになりました」と振り返る。

銀を叩いて形を作る鍛金、表面を彫って装飾する彫金など、銀器を作る技法は300年前の江戸時代に確立されたものだが、作るものは時代ごとに変化してきた。「私が始めた頃はやかんや急須、その後1970年代の高度成長期には、ゴルフ大会の優勝カップの注文がたくさん来しました。1980年代は、半導体製造に欠かせないプラチナ製の容器製作を頼まれました。なんだそれは?という思いでしたが、求められたら工夫を凝らし、それを作るのが仕事です」。半導体の製造が海外に移った後は、仏具の作り手の需要が高まり、多く作るようになった。

最後に銀器の未来について尋ねてみた。「私たち職人は求められるものを一生懸命作るだけですが、

まずはたくさんの方に銀器に触れてみてほしいです。コップならその飲み口のよさを感じてもらったり、銀のよさを知ってほしい。手入れも簡単なので、世代を超えて銀器を使っていたきたいです」



銀師
上川一男
(雅号 二代目宗照)
かみかわかずお

江戸時代末期の銀師の名匠・初代平田禪之丞の直系継承者である初代上川宗照(そうしょう)を父に持ち、1977年に二代目宗照を襲名。11代続く技を継承する。「日伸貴金属」代表取締役。2014年黄綬褒章など受賞多数。

日本人のふるさとの森を 未来につなぐ

政治家として熊本県知事、そして第79代内閣総理大臣を務めた細川護熙さん。県知事時代の取り組みや、東日本大震災後に立ち上げた「鎮守の森のプロジェクト」などを通して、「貫して植樹活動に力を注いできた。そこで、日本の森への思いと、森を守るために必要なことをうかがった。

広葉樹が育つ森づくり

日本は国土の約7割が森林だといわれています。その大半は、戦後の造林でつくられたスギやヒノキの人工林。しかも多くの山で伐採に適した時期を迎えていながらも、さまざまな理由から放置されています。荒廃してしまつたスギやヒノキだけの山は保水力が少なく、土砂崩れなどの災害を招きやすくなっています。

こうした山の状態を変えるためには、実がなり、水を蓄える力が強いさまざまな広葉樹が育つ森をつくっていかなければいけません。熊本県知事時代には「緑の三倍増計画」を進め、熊本空港近くの森づくりなどを行いました。「木を植えてください、緑を増やしましょう」と、県の職員の方々に半ばあきれられるほど、ことあるごとに言っていました(笑)。

瓦礫を活かして 緑の防潮堤づくり

東日本大震災後、国内外で森づくりに取り組んでおられた植物生態学者の故・宮脇昭先生が、震災で出た瓦礫を活かし、「緑の防潮堤」をつくろうと提唱されていました。

震災後すぐに被災地の現地調査を行い、松林など多くの木が流されたなか、常緑広葉樹の森がある場所は被害を免れていることに気づかれたそうです。その代表が神社を囲むように存在した「鎮守の森」でした。そこで、何十年何百年にわたり地中深く根を張る常緑広葉樹で緑の防潮堤をつくれれば、防災に役立つのではないかと思い、木を植えて防災に活かそうと考えられました。

当時、さまざまな復興計画がありましたが、自然とともに取り組めるこのアイデアはいちばんいいと思いました。すぐに協力を申し出、12年に「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」を一緒に設立しました。調べてみますと、関東大震災や阪神・淡路大震災の時に広葉樹に囲まれた場所が火災による消失を免れた例が数多くあることがわかり、森が津波や水害だけではなく火災時にも役立つと実感できました。

プロジェクトで最初に植樹を行つてからすでに10年。30センチくらいだった苗木も、高く育つたものは10メートル



公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト
理事長

細川護熙さん

ほそかわ・もりひろ ●東京都生まれ。朝日新聞記者を経て、衆参議員、熊本県知事、日本新党代表、内閣総理大臣を歴任。60歳を機に政界を引退。アトリエにて作陶、書、水墨、漆芸、茶杓づくりなどを行う。著書に『不東庵日常』、作品集『晴耕雨読』、『ことばを旅する』など多数。

日本人の情感や文化、 自然を育み、さらには防災にも役立つ 鎮守の森を増やしていきたい

ルあまりになっていきます。木がわずかに10年でもここまで大きくなることを知り、あらためて自然の力を感じています。

鎮守の森は 日本人のふるさと

プロジェクトは途中で名称を「鎮守の森のプロジェクト」と変えて、現在では大阪府、高知県など全国で「鎮守の森」づくりを行っています。

「鎮守の森」というのは、本来は神社の周辺に広がる森を意味しますが、私

たちが増やしていきたいと考える鎮守の森は、日本人が懐かしいと感じる身近な存在の森のことです。

私も子どもの頃、神社の背後にある鎮守の森でドングリを拾ったり、セミをとったりして遊んだことを懐かしく思い出します。地域の人にとっては、厳粛な雰囲気をもつ祭りの場であり、憩いの場です。しかも、実をつける広葉樹が中心なので、多種多様な動植物が共存できます。日本人の情感や感性、さらには文化を育み、豊かな生態系をつくり、しかも防災の役割まで果たす

ことができる、それが鎮守の森です。

東日本大震災後も、日本では毎年のように災害が発生し、近年は南海トラフ地震の危険性が高まっているといわれています。そのためにも、沿岸部の防潮堤だけでなく、都市部の広域避難所となっている学校や公園の周囲にも植樹を進めていきたいと考えています。緑がなくなっていく都市は衰退する、という言葉があります。緑豊かな日本を未来に残していくために、今後力



2013年に植樹した千年希望の丘(写真左)は、2021年には下の写真のように緑豊かな場所になっている



2021年

とができる。大変な作業だった。「市民の方々に苗を育ててもらいましたが、うまく生長するのは10本に1本くらい。私たちもスキルを磨かなければと技術部会を立ち上げ、育苗や植樹の指導、植樹後の手入れなどができるようにしました」。植樹に関わる技術はマニユ



苗木に添えられたメッセージからは、植樹が防災につながることを理解して、この活動に参加していることがわかる



2017年5月開催の第5回千年希望の丘植樹祭(宮城県岩沼市)にて、ボランティアの方々と一緒に木を植える「鎮守の森のプロジェクト」理事長の細川護照さん

鎮守の森のプロジェクト 鎮守の森で、 災害から人々を守る

鎮守の森を防災林と位置づけ、それを増やす活動に取り組んできた「公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト」。2022年5月には設立から10年を迎える。そこでこれまでの活動を振り返りながら、活動の意義や今後の抱負などについて、事務局長の新川眞さんにうかがった。

宮城県仙台市の南に位置する岩沼市。その沿岸部約10キロメートルにわたって続く「千年希望の丘」は、いくつもの丘が連なり、丘と丘の間をつなぐように森が広がっている。

この場所は、東日本大震災の津波ですべてが流されてしまい、住民は内陸部への移住を余儀なくされた。そこに、震災で出た瓦礫を土台にした丘をつくり、常緑広葉樹を植えて「緑の防潮堤」にしようとする市民主導でつくられたのが「千年希望の丘」だ。2013年に植樹した17種類、約3万本の木々は、すでに人の背丈を超え、7メートル以上の高さに育ったものもある。

苗づくりから取り組む

「鎮守の森のプロジェクト」の前身である「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」が、「緑の防潮堤」を実現する場

アルとして整備した。その後、福島県南相馬市や岩手県山田町などで、緑の防潮堤づくりを広げていった。

「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」は、震災瓦礫がなくなったことを契機に「鎮守の森のプロジェクト」と名称を変更。津波だけでなく、火災や水害などの防災に役立つ鎮守

の森を全国に広げるために、新たなスタートを切った。

これまでにプロジェクトが植えた木は53万本を超える。地域の人たちや鎮守の森のプロジェクトにボランティア登録している人たち、また毎年参加する企業の社員などがボランティアとして植樹に参加し、その数は延べ6万人にも達する。さまざまな人の手に支えられて植樹が続けられていることがわかる。「スタートから10年間、イオン環境財団などにも助成いただき、とても感謝しています。新型コロナウイルス感染症の流行で、この2年、大規模な植樹はできませんでしたが、年間50

として最初に巡り合ったのが、この「千年希望の丘」だった。

植える木も慎重に選ばれた。土地に自生し、もともと安定して成長する木の種類を探して植樹する、という考え方で進めました。どんな種類の樹木を、どのくらいの割合で植えるのかを調査するところからプロジェクトは始まりました」と事務局長の新川眞さんは説明する。

まずカシノキやタブノキ、ヤマザクラ、ヤブツバキ、ヤツデ、マサキなど、岩沼市の沿岸部で育ってきた木を選定。地域に自生しているそれらのドングリを集め、苗を育てて初めて植樹するこ



岩手県山田町田の浜地区での植樹祭に参加した大学生ボランティア。若い世代には「鎮守の森」になじみの薄い人もいるが、「植樹を通して、その意義や大切さを学んでほしい」と新川さんは語る

00本の植樹は続けられました。10年続けてきた森づくり、これからも植樹を続けると同時に、植樹して森が健全に育つように関わっていききたいと思えます」



公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト 事務局長

新川 眞さん

につかわ・まこと●日本交通公社(現JTB)在籍中に、「ヨーロッパ環境問題調査団」に同行し、団長を務めた宮脇昭横浜国立大学教授(当時)と知り合う。それをきっかけに国際生態学会横浜大会事務局に入局。「財団法人 国際生態学センター」企画担当コンサルタント、「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」事務局長を経て現職。

森は南三陸町の宝！

持続可能な森づくりと森林資源の活用

宮城県北東部に位置する南三陸町。漁業の町というイメージが強いが、実は林業も盛んだ。東日本大震災後、持続可能な林業と森林資源の活用に取り組んでいる。



南三陸町は、リアス海岸の湾内で行われているギンザケやカキ、ホタテなどの養殖がよく知られている。その海に背を向けると、ぐるりと町を取り囲む山が目に入る。7割以上を森林が占める南三陸町では、昔から杉の植林が行われてきた。伊達政宗の時代には杉の良産地として知られ、その木材は仙台城と城下町をつなぐ「大橋」にも利用されたそうだ。南三陸町は林業の町でもある。

持続可能な森林経営で林業の復興を試みる

2015年、南三陸町の林業にとって大きな出来事があった。「南三陸森林管理協議会（以下、協議会）」が、全国で35件目、県内で初めて適切に管理された森林であることを示すFSC®国際認証（以下、FSC認証）を取得した。協議会は、認証取得のために行政や山主、林業者、大学、森林管理組合など町内の林業関係者で設立され、町内にある森林約1万2000ヘクタールのうち、約2470ヘクタールが認証を受けた。



上 / 佐久でいちばん植物に詳しく、生物分類技能検定二級（植物部門）の資格を持つ企画研究課長の大洲香葉子さん。育林イベントでは、植樹の指導を行った 下 / 当日は300本近いカラマツの苗を植えた

12代にわたって林業を営んできた株式会社佐久専務取締役の佐藤太一さんは協議会の一員で、認証取得の中心として動いてきた若き林業家だ。「南三陸を囲む山は分水嶺^{※1}になっていて、降った雨や雪は山から川、そして海へと流れます。全部がつながっているのです。震災後、町は森と里と海と人がつながる持続可能な町づくりを掲

佐久12代目の佐藤太一さん。町内に270haの山林を所有している。「このあたりは樹齢100年以上の杉を作ってきたエリアです。場所によって同じ杉でも育ち方が違い、用途も違ってきます。山を見ると、父や祖父がどんな思いで山を育ててきたのかがわかります」

げました。そのために山ができることはと考え、FSC認証の取得をみんなに進めました」

佐藤さんをはじめ、協議会のメンバーはみな自分たちの育てる杉の品質には自信があり、それぞれの山づくりに工夫を凝らしてきた。しかし、認証を受けるためには、これまでのやり方を変えなければならないこともあったという。たとえば下草刈り。従来、間伐の際には刈っていたが、認証林では下草が育つように間伐を行う。下草も大地を支え、冬に落とす葉は杉が育つ土を豊かにするからだ。

林業に携わる人たちの労働環境にも基準がある。「安全基準や労働時間などを協議会全体で統一しました。ユニ

フォームやヘルメットも同じにしたので、一体感がさらに生まれました」と佐藤さんは笑う。こうして管理される杉林は、ひときわ明るい。適切に間伐が行われていて日光がよく入り、思わず深呼吸したくなる清々しさがある。

山づくりのおもしろさを知ってもらいたい

FSC認証を取得したことで、企業との新たなつながりも生まれ、南三陸杉ブランドも市場に浸透しつつある。しかし、効果は経済的なものだけではなく、佐藤さんは言う。「今、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、国内外でさまざまな取り組みが行われています。南三陸の林業も、その一端を担えると考えています。宮城県内でもFSC認証を取得する試みが広

がっているのは、その表れだと思えます」
今、佐藤さんは、皆伐した後には多様な広葉樹が育っている自分の山で「豊かな山づくりプロジェクト」を始めている。山の地力を活かし、よく育った広葉樹を残しつつ、その間でカラマツを育てようというもの。プロジェクトでは一般の人を募り育林イベントも行っている。

「みんなが関わりながら山づくりをしたい」と佐藤さんは言う。「山は楽しいですし、林業は奥が深い。自分たちが行った山づくりの成果はすぐに生まれ、自然の力に負けることもありませんが、それがまたおもしろいところ。そのおもしろさ、楽しさをこのプロジェクトや地域の小学校、中学校で行う授業を通して、伝えていきたいと思っています」



上2点 / 育林イベントには、町外からの参加者も。佐久の「きこり」たちの指導を受けながら、1本1本でいねいに植えていく 中 / 明るく清々しい佐久の杉林 下 / 尚綱（しょうけい）学院大学（宮城県名取市）で地域の環境保全を教える鳥羽妙（とばたえ）先生（左端）は、「学生たちが森林というフィールドに触れるいい機会」と、ゼミ生と参加。外に出た作業は久しぶりという学生たちは、初めての植林体験。「整備された森に入り、林業の内側に少しですが触られた気がします」と感想を語る

※1 降った雨や雪が流れる方向の分かれ道の境界線が、山頂や山の尾根に沿って伸びている場所。



上／館内には書籍や漫画、雑誌などが、杉材の書棚に陳列されている 下／ロビーにあるテーブルと椅子はYES工房で製作したもの

南三陸まなびの里 いりやど

研修や合宿などに利用できる宿泊施設。宿泊棟は、杉が覆う外壁が印象的だ。館内には杉材のテーブルや椅子、本棚などがあり、家具材としての南三陸杉の魅力に触れることもできる。



上／ハマレ歌津は、歌津地区の海岸沿いにある商店街。みごとな海の景色が一望できる 左／さんさん商店街は、2017年本格的にオープン。多彩な28の店舗が並び、町内外から多くの人が訪れる

南三陸さんさん商店街・ 南三陸ハマレ歌津

どちらも、建築家の隈研吾さん監修の下に設計された建物。目の前には志津川湾が広がり、南三陸杉を使った建物は、あたたかみを感じさせる。南三陸の海の幸満載の「キラキラ井」や新鮮な海産物、南三陸のお土産などが揃い、観光スポットでもある。



中橋

南三陸町震災復興祈念公園と南三陸さんさん商店街をつないでいる。隈研吾さんデザインの橋は、南三陸杉のウッドデッキが印象的な太鼓橋。土木学会で田中賞(作品賞)を受賞している。



南三陸町生涯学習センター

2019年、公民館と図書館の機能を持つ建物として新設。南三陸杉は、館内の床や棚などに使われている。図書館には一般の書籍だけでなく、町の歴史や震災の記録なども揃っている。生涯学習センターには研修室やキッズスペース、調理室などがあり、設備が充実している。



右上／町役場の依頼で作った感謝の橋。震災後、復旧の応援に全国から来た団体・自治体へ配られた 右中／フロアランプ。キットを組み立てて作る 右下／レーザー加工の機械で吉祥紋柄を透し彫りにしたコースター 左上／南三陸のモチーフが透し彫りされているスマートフォンスタンド 左下／スプーンづくりのワークショップ用のキット。売り上げの一部は、林業家に還元している

と一緒に南三陸町を盛り立てていきたいと思っています



上／高台に新設された南三陸町役場本庁舎の議場。公共建築物としては日本で初めてFSC全体プロジェクト認証を取得した。議場のテーブルや椅子、庁内の天井などにFSC認証の南三陸杉がふんだんに使われている 左上／庁舎内を案内してくれた南三陸町の佐藤宏明さん

南三陸杉を町内で活用

FSC認証を取得した南三陸町の森植えて、育て、伐って、また植える。この循環を続けることで、健全な森林が未来につながる。そのためには木材の活用も重要だ。そう思って町内を巡ると、南三陸杉を使った建物が点在。町全体が南三陸杉のシヨールームのようだ。

その代表が、2017年に新設された南三陸町役場だ。杉の香りを感じる議場を案内してくれた南三陸町企画課長の佐藤宏明さんによれば、「最初はもつと木の香りが強かった」そうだ。「南三陸杉は、幹の中心がきれいなピンク色の美しい木材です。議場には、その特徴が活かされています」ほかに南三陸さんさん商店街や生涯学習センターと併設の図書館、22年の秋オープン予定の道の駅など、多くの施設で意識的に杉材が使われている。さらに、町内の製材所や加工所、建設会社などがCOC(Coin of Custody・加工流通過程の管理)認証を取得したことで、FSC認証の南三陸杉を製品として広く届けられるようになった。

一緒に町の林業を盛り立てたい

COC認証を取得した事業者のひとつ

つが、町内の山あいにある「一般社団法人南三陸YES工房」だ。震災後の地域の雇用と交流の場として地域の資源を活かしたもののづくりに取り組んでいる。キーホルダーやコースター、バッグ、スマートフォンスタンドなどの木製雑貨を、レーザー加工機械を駆使して製作しており、最近では、棚やテーブル、ジャングリズム、積み木などの商品も増えている。これらの商品の素材となっているのが南三陸杉だ。

YES工房がCOC認証を取得した理由を、代表理事の大森丈広さんは「町内でFSC認証のサプライチェーンの一端を担いたかったから」と言う。「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」という町のビジョンに共感しました。COC認証を取得することで、FSC認証の南三陸杉を知ってもらおう機会が広がると思いました」

スプーンやフロアランプなどを作るワークショップでは、適切に管理された森や、そうした森が里や海に豊かな恩恵をもたらしていることなども伝えていく。「森づくりをしている人たちと消費者をつなぐことができるのが私たち。林業に関わる人たち



1枚の板(写真下)から切り出した部品で、簡単に組み立てられる小さなテーブルと椅子のキットを考案。地元のキャンプ場と提携して、その場で組み立ててキャンプで使う体験キットとして販売している

※2 適切な管理の下に認証材の加工・流通が行われていることを評価する認証。

南三陸YES工房

「雇用」と「交流」の場として始まったYES工房。地元名産のタコをモチーフにしたオクトパス君グッズとともに、木製品づくりに取り組む。「企画、デザインから製造、販売まで一貫してできるのが、私たちの強み。町の若い世代の仕事づくりになれば」と大森さん。



イオン環境財団 さくらの名所づくり

地域と育む桜のある風景

1991年から植樹活動を続けるイオン。国内外でさまざまな種類の木を植えてきた。イオン環境財団は2021年から財団設立30周年の記念事業「植樹30万本プロジェクト」として、さくらの名所づくりに取り組んでいる。

愛知県岡崎市には桜の名所が多い。市内を流れる乙川堤防沿いもそのひとつで、すこし早く咲く桜（河津桜）と、その後には咲き誇るソメイヨシノを堪能できる桜スポットになっている。

この乙川堤防のソメイヨシノは、1965年、イオンの前身である岡田屋が、創業地の三重県以外に初めて出店したことを記念して植樹したものだ。公益財団法人イオン環境財団（以下、イオン環境財団）によれば、当時新店オープンにあたっては、パーティーを催すのが通例であったが、それととり止め、岡崎市に根ざし、市民に愛されるものと桜の苗木700本を寄贈。市民の方々と一緒に乙川堤防沿いに植えた。これがイオンふるさとの森づくりの原



右上/イオン環境財団が岡崎市で行った桜の植樹を記念した石碑 右下/2016年、岡崎市は市制100周年記念事業「岡崎さくら100年プロジェクト」を実施した。イオン環境財団も賛同し、3年間で約1,000本の桜を寄贈。1965年に桜を寄贈した乙川堤防沿いで記念植樹を行った 左/「さくら名所100選」に選定されている岡崎公園。春になると、その周辺の乙川、伊賀川とあわせて約800本のソメイヨシノがいっせいに花開く

点となった。地域の方々とともに植えた木が50年以上を経て、現在では観光名所にまでなっている。以後、イオン環境財団では国内外、さまざまなところで植樹を行っている。そのポリシーは「地域の人々とともに活動すること」。岡崎市に桜を植えたときから一貫している。

また植えるだけでなく、イオンは植樹後のメンテナンスも欠かさない。植えた後3年間くらいは、従業員も参加して下草刈りを行っている。それによって、苗木が健康的に育ってくれるという。

こうして植樹した木は、1241万本（2022年2月末現在）を超える。

平和や復興のシンボルに

2021年から、イオン環境財団は設立30周年を記念して植樹30万本プロジェクトに取り組んで

いる。その柱のひとつが「さくらの名所づくり」である。イオンの里山づくりのモデルとなっている長崎県南島原市、宮崎県綾町、植樹地である宮城県の石巻南浜津波復興祈念公園、北海道厚真町などで地域の人々と植樹を進めている。記念事業に桜の植樹を選んだのは、桜が日本人にとってシンボリックな意味を持つ花だから。春の訪れを知らせるだけでなく、復興や平和、希望など人々の願いを託すことができる。

人々の暮らしに近い場所で行われる「さくらの名所づくり」。植樹に参加した方々からは「将来どんなふうになるのか木が大きくなっていくか楽しみだ」「どんな花を咲かせてくれるのだろう」といった声が多い。親子で植樹に参加した後、植えた木の生長と子どもの成長を重ねて、楽しみにしている方もいるという。

植樹30万本プロジェクトでは、桜やその地域に自生する木の苗木の配布も行っていて、自宅に植えて育ててほしいとも呼びかけている。ぜひ若い人たちにもイオンのプロジェクトに参加してもらい、日本の文化にもつながる桜の木に関心を持っていただけたらうれしいという。

公益財団法人 イオン環境財団

地球環境をテーマにした日本初の企業単独の財団法人として、1990年、岡田卓也（イオン創業者／イオン環境財団理事長）により設立。以来、ひとつしかない地球を次世代へ引き継ぐため、世界各地のステークホルダーと連携し、植樹活動や助成事業、環境教育を中心に、環境活動を継続実施している。

※1「イオンふるさとの森づくり」、(公財)イオン環境財団による植樹、「イオン東北復興ふるさとの森づくり」の植樹の合算

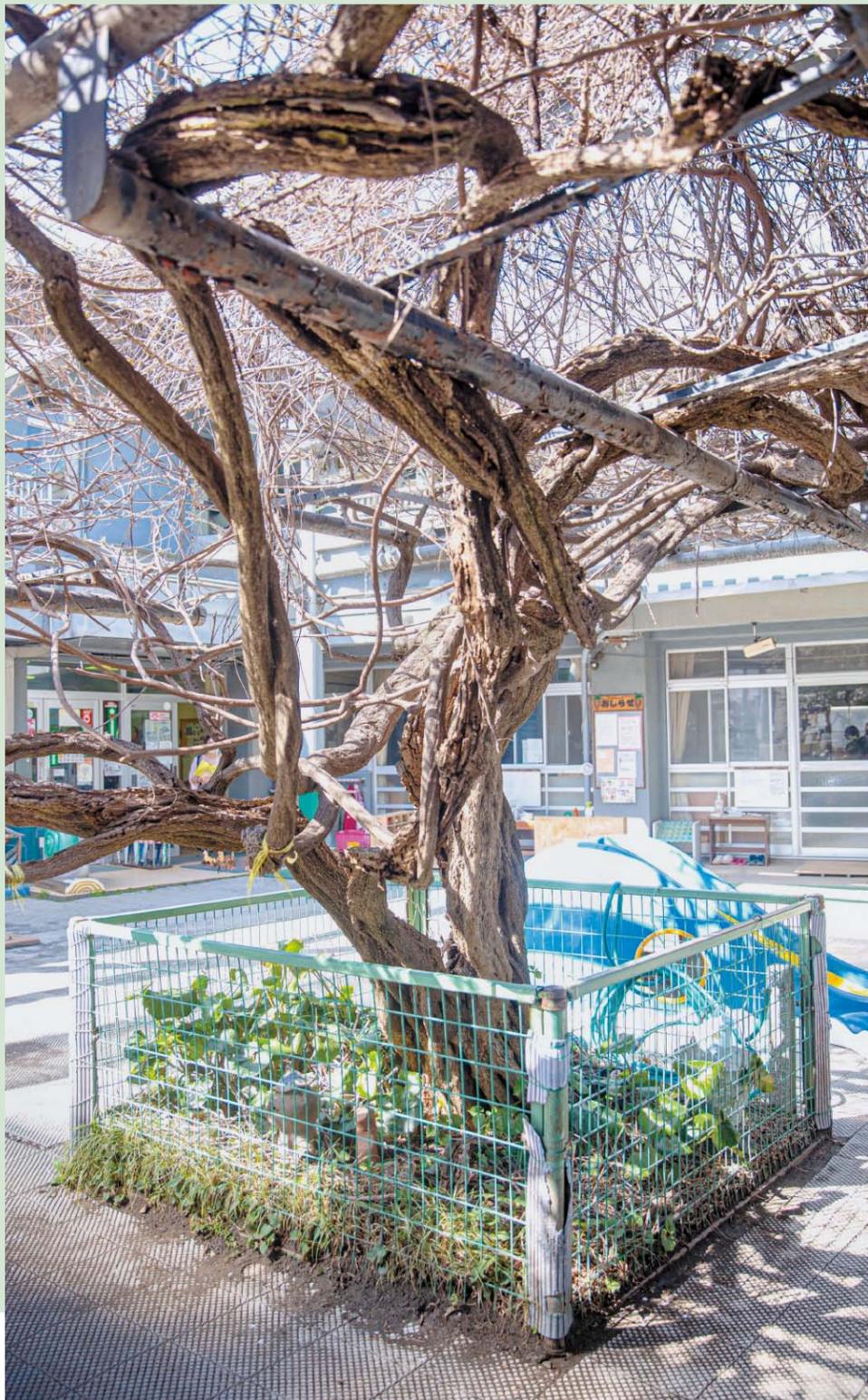
何千本という木を診断・治療してきた塚本こなみさんが語る 樹木医は、木の命と向き合う仕事

木も人と同じように傷ついたり、病気になったりする。そんな木を診断し、的確な治療を行うのが樹木医だ。「あしかがフラワーパーク」での、樹齢130年を超える大藤4本の移植を成功させた樹木医の塚本こなみさんに、樹木医という仕事や木と人の関わりについてうかがった。

市天然記念物の藤を診断する

樹木医として全国を飛び回っている塚本こなみさん。この日、その姿は、ともに仕事をする娘の有紀さんと一緒に、東京都武蔵野市のふじの実保育園にあった。同市教育委員会の依頼を受け、園庭にある推定樹齢200年以上の藤の診断を行うためだ。

市天然記念物に指定されている藤は、園のシンボル。園には、子どもたちが花で遊んだり、さやかからはげ飛んだ種を拾い集めたりと、藤と関わる様子が多くの写真に残されている。毎年4月のふじ祭りでは、園児たちはおみこしを担いで近くの市役所まで練り歩き、地域の人たちに収穫した藤の種を配ることが恒例行事となつて



ふじの実保育園の園庭にある藤。藤は、実際には木ではなくつる性の植物。樹上の棚に伸ばしているつるが伸びすぎて健康な枝と枯れた枝が混在しており、剪定がむずかしいと塚本さんは見ている

いる。四季折々、園児たちや地域の人たちは、藤に親しんできた。「以前はとても大きく長い花が咲いたのですが、最近は花の数が少なく、小さくなっていました」と

園長先生は心配そうだ。塚本さんは、藤の様子や周囲の環境、土の状態などを見ながら、いちばん時間をかけて調査したのは、生育の履歴だった。「いつから植えられていて、どんな手入れをしてきたのか、つまりこの藤が育ってきた歴史を把握したうえで今の状態を見て、弱った原因を特定します」と診断のポイントを語る。最後には、藤棚の上に残っている枯れた枝を除去、多くの健康な枝に日光が当たるようにして、健全な根を育てる方法を提案した。

塚本さんは、藤の様子や周囲の環境、土の状態などを見ながら、いちばん時間をかけて調査したのは、生育の履歴だった。「いつから植えられていて、どんな手入れをしてきたのか、つまりこの藤が育ってきた歴史を把握したうえで今の状態を見て、弱った原因を特定します」と診断のポイントを語る。最後には、藤棚の上に残っている枯れた枝を除去、多くの健康な枝に日光が当たるようにして、健全な根を育てる方法を提案した。

木も人間と同じと考える

樹木医の資格制度ができたのは1991年。街路樹や天然記念物に指定された樹木などの保全・診断・治療に携わることができるよう人材を育成するために林野庁の事業として始まった。塚本さんは92年に資格を取得し、以来、多くの木と関わってきた。

たとえば「あしかがフラワー



右／藤に触れて状態を見る塚本さん 中上／周囲の土の状態を見るためにマットをはがして掘る 中下／土を掘ると赤土の上に砂の層があることがわかった。園庭として整備するために砂を入れたのかもしれない、と塚本さんは判断する 上／藤の歴史を、市の教育委員会や保育園の理事長から聞き取りをする塚本さん



樹木医 塚本こなみさん

つかもと・こなみ ● 静岡県出身。一級造園施工管理技士。1992年樹木医となる。93年株式会社環境緑化研究所設立。96年「あしかがフラワーパーク」の大藤移植を成功させ、99年園長に就任。2013年から「はままつフラワーパーク」を運営する公益財団法人浜松市花みどり振興財団理事長を務める。

パーク」の大藤。樹齢130年を超える大木はロープで吊るして移動させるが、藤は幹がやわらかくロープで吊るすと傷ついてしまう。そこで塚本さんが考えたのが、骨折したときに人がつけるギプスだった。幹にギプスをつけて、その上からロープをかけて動かし、移植を成功させた。「もともと専門的に造園を学んでいないので固定概念がない。自由な発想ができるのだと思います」と有紀さんは見ている。「人間と同じことをやればいいと思っただけです」と塚本さんは笑顔で返す。

持ち主の木への思いに応える

樹木医として、木に命があることに正面から向き合ってきた塚本さん。「ときには治療が難しいと判

断することもありますが、命あるものは必ず減する、ということも学んできました」

さらに向き合うのは木だけではなく、「持ち主にはその木とともに歩んだ歴史があり、思いがありません。なかには『この木が枯れたら生きていられない』『ご先祖さまに申し訳ない』と切実におっしゃる方々もたくさんいます。その思いにできるだけ応えていきたい」

樹木医は自分の経験を積み重ね、その経験を広げていくことでしか能力を向上させることはできないと塚本さんは考えている。「あらゆるチャンスが勉強になります」と、これからも木と人を強く結びつける仕事への意欲を示した。

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

CTION



船橋市内の公民館、自治会や小中学校・高校で実施されている「アースドクターふなばし」の環境出前講座・出前授業。成人向けには、温暖化の知識や市民ができる温暖化防止対策などを紹介する。子ども向けには、楽しんでもらえるように工作や実験を盛り込んで、温暖化の知識を増やせるプログラムを作成している

地域とともに地球温暖化防止を考える

地球温暖化防止活動推進員という国のボランティア制度をご存知だろうか。都道府県ごとに委嘱された推進員は、今、世界的な課題となっている地球温暖化の現状や対策について、身近な地域の人々に向けて伝える活動を行っている。

千葉県船橋市で2007年に結成された「アースドクターふなばし」は、千葉県の地球温暖化防止活動推進員30人ほどが集まる団体だ。「めざすはストップ温暖化!」をスローガンに、15年にわたり活動を続けている。「メンバーは研究者や教師、会社員、主婦など多彩です。共通するのは、温暖化を止めるためになにか行動したいという熱い思いがあることです」と事務局長の阿部利美さんは話す。

おもな活動は公民館や自治会での環境出前講座や、小中学校・高校などでの環境出前授業、「エコメッセちば」「ふなばし環境フェア」といった環境イベントへの出展。大人から子ども

まで、幅広い世代に向けた発信を行っている、とくに子どもに対しては、体験を重視した講座を心がけている。「たとえば小さな家を組み立ててソーラーパネルを付けて風車を回したり、ソーラーヘリコプターを作ったりします。子どもたちが楽しい体験を通して、地球温暖化について知ってもらえたらと考えています」

コロナ下で対面の講座やイベントは減ったが、オンラインを取り入れて活動を続けている。「国のGIGAスクール構想のもと、船橋市の学校もICT環境が整備されており、2021年度は60回近く講座を実施できました」と阿部さん。公民館などでのオンライン講座には、遠方の人や小さなお子さんのいる方が参加しやすいという利点もあった。「これからはリアルとオンラインを併用しながら、地球温暖化防止の活動を進めていきます」



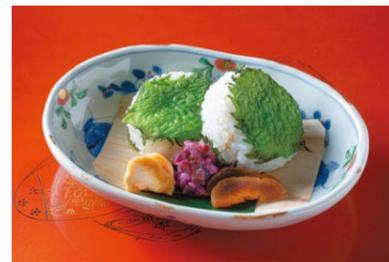
上/組み立てた家に小さなソーラーパネルを付け、風車を回し再生可能エネルギーについて体験する 右/公民館で実施した再生可能エネルギーの体験講座。こうした工作や実験に使う文房具は、「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」の寄贈品で揃えている



左/「アースドクターふなばし」の皆さん。活動には、それぞれの多彩な経歴が活かされている 右/図書館の緑のカーテン・育成クラブとゴーヤの観察会を行った

じよんの買物でれかきを幸せにするしくみ。イオン 幸せの黄色いレシート since 2001

毎月11日の「イオン・デー」にレジで発行される黄色いレシートを、応援したい地域の団体のBOXに投函。集まったレシートの合計金額の1%相当の品物をイオンが該当団体に寄贈します。支援が必要な団体と、応援したい地域のお客さまをつなげる仕組みです。



大いなる哲学を持ち、エシカルな食の場を提供する

Sustainable Restaurant

Vol. 13

明治の頃から続く料亭で、懐石料理と郷土の味を堪能する

新潟県北部、胎内市にある「料亭 南都屋」。国の登録有形文化財の指定を受けた歴史ある本館でいただく懐石料理には、地元の食材がふんだんに取り入れられている。

南都屋の創業は、江戸時代末期まで遡る。新潟と米沢を結ぶ米沢街道の宿場町中条で、浜で獲れた魚を商う魚屋から始まり、明治には店の二階で刺身や酒を提供。昭和4年に現在の建物を構え、料亭となった。

6代目当主、須貝眞司さんが大切にしているのは、中条の食材と郷土の味。「中条は胎内川の扇状地で、水が豊か。その水で育った野菜や米は世界一おいしいと思っています。地元の食材を使い、中条



上/地元産の新米を使ったふきのとう味噌焼おにぎり 下/上の膳の右上は身欠き鱈の甘露煮の炊合わせ。左上は鮭はらこあんかけ茶碗蒸し。焼き物は春鮭の白焼き。郷土料理の飯寿司、地鶏の旨煮は、前菜(下の膳)の一品として供される

だから出せる料理を食べていただきたい」と須貝さんは誇らしげに語る。塩、醤油、味噌などの調味料も地元産にこだわりのも同じ理由だ。料理は懐石料理。旬に合わせた料理が並び、そのなかに「地鶏の旨煮」や鮭を米麹で発酵させた「飯寿司」などの郷土料理もあるのが特徴だ。「地鶏の旨煮は、秋祭りのごちそうとして食べられてきました。鶏の肉と肝、ごぼう、こんにゃくを2日間じっくりと甘辛

く煮込んだ素朴な料理ですが、時間と手間がかかり作る方が少なくなっています。70代くらいのお客さまに『私の祖母の味』とよろこんでいただいたときには、この味は守っていきたく思いました。こうした地元の味や食材を地域の子どもたちにも伝えたい、と昨年は中学校の授業に参加。中条の野菜や郷土料理について話し、生徒たちが出したアイデアでお弁当を作った。「子どもたちが地域の食について知り、誇りを持つきっかけ



地物のサツマイモ、ベにはるかのプリン。甘さを抑え、ベにはるか本来の甘みを楽しめる。いちごは地元産の越後姫

けになってくれればうれしいです」と須貝さん。地域に根ざして長く料理屋を営んできた南都屋だからこそ果たせる役割がある。



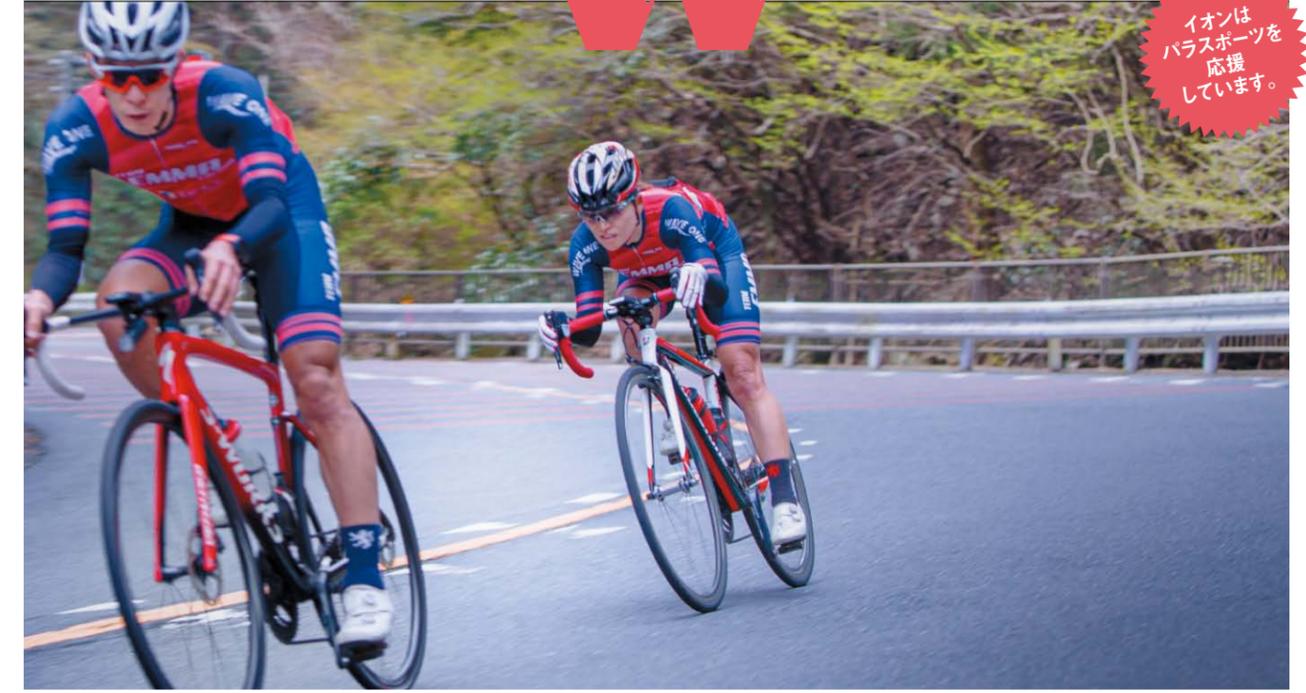
「南都屋」の伝統をつなぐ当主の須貝眞司さん(右)と女将の洋子さん



料亭 南都屋

④新潟県胎内市本町4-18
☎0254-43-2016
Ⓧ昼11:30~14:00、夜17:00~22:00
※昼・夜ともに2日前までに要予約
Ⓧ月曜日 <http://www.nantoya.jp/>
※最新情報はHPでご確認ください

パラサイクリング



イオンはパラスポーツを応援しています。

トレーニングで峠道走る杉浦佳子さん(後ろ)。トレーニングでは坂道の10分走を繰り返したり、筋力アップのウエイトトレーニングなどをこなす。前走者はコーチの八幡光哉さん

体に合わせた自転車でコースを疾走する

パラサイクリングで使われる自転車には4つのタイプがあり、それぞれに乗車する競技クラスがある。通常の2輪タイプ(切断やまひなど、四肢に障がいがあるCクラス)、3輪タイプ(まひなど、重度の四肢障がいがあるTクラス)、2人乗りのタンデム車(視覚障がいがあるBクラス。前に健常の選手、後ろに視覚障がいの選手が乗る)、ハンドサイクル(下半身不随など下肢に障がいがあるHクラス)だ。競技場を使ったトラックと、屋外の道路を走るロードでレースが行われる。

「私はCクラスですが、歩行が困難な選手でも、ひとたび自転車に乗ってトラックに出ると驚くようなスピードでコースを疾走します。ハンドサイクルのロードレースもぜひ観戦していただきたい競技です。ハンドサイクルは重心が低く、選手は寝そべるように乗って走るので空気抵抗が少なく、下り坂などはF1レースを見ているような速度で走り抜けていきます」

そう教えてくれたのは、東京2020パラリンピックで2つの金メダルを獲得した

パラサイクリングの自転車には、それぞれの選手の障がいに応じたカスタマイズが施されている。杉浦さんは右半身にまひがあるため、ブレーキの左右を一般とは逆に入れ替えている。停車やスピード調整に重要な前輪ブレーキの操作を左手で行えるようにするためだ



杉浦佳子さんだ。女子個人ロードタイムトライアル(C1-3クラス)と女子個人ロードレース(同)で優勝した。また、日本のパラリンピック史上最年長の50歳での金メダリストとなり注目された。

杉浦さんは20代の頃から趣味でマラソンを始め、トライアスロンなどにも出場してきた。しかし2016年、自転車のロードレース中の転倒事故で高次脳機能障がい、右半身まひなどの障がいを負うことになり、その後のリハビリで出会ったのがパラサイクリングだった。

「自転車のロードレースでは、先頭を走る選手が向かい風を最も受け、体力を消耗します。パラのレースでは、同じクラス内でも障がいの程度によって段階が分けられ、ヘルメットの色でそれがわかるのですが、障がいがより軽い選手が先頭を走るよう暗黙のルールがあったりして、そういうところにも注目するとレースをより楽しめると思います」と、世界選手権を前にしたトレーニング後に杉浦さんは語ってくれた。



5月からは世界選手権が始まる。好成績を残すことで、日本チームへのポイントが貯まる。「ポイントが多いほど、2024年のパリパラリンピックでの日本人選手の出場枠が増えます。私もパリを目指していますし、若手のためにもがんばります」と杉浦さん



フランス人が大好きなウフマヨネーズ。ウフフはフランス語で卵を意味します。季節の野菜やサーモン、茹でたチキンなどと組み合わせるとサラダ仕立てにすることが多く、誰でも失敗なく作れます。素材の取り合わせや盛り付け次第でも華やかに演出できるのも魅力。普段の食事はもちろんですが、おもてなし料理としても喜ばれること間違いなしです。

マヨネーズは、スーパーなどで売られている既製品にほんのちよっと手を加えるだけでレストランの味に近づけるレシピを考えました。味わいが重たくなりすぎないようにカロリーハーフのマヨネーズを使うのがおすすめです。これに、煮詰めたオレンジジュースを加えるだけで、一気に爽やかな甘味とコクがでるのです。また野菜には、レモン果汁とオリーブオイルを混ぜた軽いドレッシングをかけますが、酸味をまろやかにするためにはほんの少し蜂蜜を加えるのもポイントです。このほんのひと手間食べやすい、風味の印象が変わります。

卵は、半熟が一般的ですが、硬めでもゆるめのポーチドエッグでもお好みで。また、添える野菜は、季節を感じるもの、葉野菜、トマト、柑橘類やきのこなど食感や香り、色の違うものを組み合わせると色々楽しんでください。



半熟卵を割り、とろける黄身とウフマヨネーズにサーモンや野菜を和えながらいただく

イオンが取り組む「食と健康」シェフパートナーズ料理塾より
家庭で再現！シェフのヘルシーレシピ 13
サーモンとウフマヨネーズの
サラダ仕立て

茹で卵の上にマヨネーズソースをたっぷりかけたウフマヨネーズ。フランスのカフェやビストロの定番メニューとして親しまれています。栃木県宇都宮市でフランス料理の真髄を伝え続けている「オトレストラン」で、庶民の味を華やかな一皿に仕立てる技を教えていただきました。



オトレストラン
栃木県宇都宮市西原町3554-7
☎028-651-0108

サーモンとウフマヨネーズのサラダ仕立て

材料(2人分)
サーモン140g(1人分70g)、マリネ用(塩適宜、レモンの皮、ディル)、卵2個、甘夏やグレープフルーツなど柑橘類1/2個、季節の野菜(ブロッコリー、アスパラガス、そら豆、ルッコラ、からし菜など)、ドレッシング用(レモン果汁10g、オリーブオイル20g、蜂蜜1g、塩少々)、ウフマヨネーズ用(カロリーハーフマヨネーズ20g、100%オレンジジュース150g)、仕上げ用(粗びき胡椒)

作り方
①薄切りにしたサーモンの上に塩を振り、すりおろしたレモンの皮、ディルをのせて5~10分おく。②

半熟卵またはポーチドエッグを作る。③ブロッコリーやアスパラガス、そら豆など茹でる必要がある野菜は茹でて湯を切り冷ましておく。④葉野菜など茹でる必要がないものは適当な大きさにちぎっておく。⑤柑橘類は、薄皮をむいて一口大に切っておく。⑥オレンジジュースを弱火で1/5程度に煮詰め、冷ましてからマヨネーズと混ぜ合わせる。⑦ドレッシング用の材料を合わせる。⑧①のサーモンを皿の中央に並べて真ん中に②の卵をのせ、周りに③④⑤を盛り付ける。⑨野菜には⑦のドレッシングを、卵には⑥のウフマヨネーズをかけて最後に粗びき胡椒をのせる。

オトレストラン 取締役マネージャー
音羽 創さん
創業者であり、日本におけるフランス料理の発展に尽力している音羽和紀氏の次男。国内外の名店で経験を積み、東京・白金台の「シエル エソル」(現在閉店)にてシェフを務めたのち宇都宮に戻り、父、料理長の兄とともに、トータルでフランス料理の真髄が味わえる店づくりに邁進している。

